



災害時における新型コロナウイルス感染症への対策について
龍 誠一 議員

問 新型コロナウイルス感染症が終息しない間に災害が生じた場合、避難施設をどのような形で開所し、密閉、密集、密接のいわゆる3密をどのような形で防ぐのか。

答 避難所における感染防止を図るため、新型コロナウイルス感染症対策版の避難所運営マニュアルを作成しました。避難所には、通常の資機材に加え、感染予防のための消毒液、非接触型の検温器等を設置し、発熱やせき等の症状がある避難者は、専用スペースや専用トイレを準備する等の対策を講じます。避難者の間隔を空けて十分な換気を行うとともに、避難者の健康状態を把握し、従事する職員も感染予防を徹底し、体調の変化について常に留意します。職員の配置も、感染防止の体制を取るため、増員の計画をしています。

問 梅雨の期間中に災害が生じた

場合、避難を希望される皆様が安全に避難していただくために、どのような対処をされるのか。

答 避難するということは、避難所に行くことではなく、難を避けることです。安全な場所にいる方は、そのまま残っていただき、場合によっては救助を待つことを考えるなど、何が自分にとって一番適切な避難であるかを市民に対し周知していきたいと思っています。

問 台風や地震の場合も主とする対応内容は変わらないが、災害の内容や被害の状況を見ながら、いち早く対応するということが。

答 そのとおりですが、市民一人ひとりの災害に対する心構えも必要です。行政ができることには限りがあるので、まずは、自分の身は自分で守る、隣近所は隣近所で守るというように、各地域でも考えていただければと思います。



小中学校におけるIT環境整備について
市立図書館への本の消毒機導入について
宮崎 稔子 議員

問 長期休校期間中に有志の先生方が作られた学習DVDやYouTube講座の内容を伺いたい。

答 市内の小学校算数研究部の教員が中心となり、3月と4月に学習予定だった算数の内容を7分から10分程度にまとめた動画教材であり、21本作成しました。保護者が一緒に見ることで、子どもに分かりやすく教える家庭学習の支援にも役立つものとなっています。

問 児童生徒一人一台の端末と高速ネットワーク環境を整備するGIGAスクール構想の進捗状況は。

答 今年度の夏休みを利用して、学校内のLAN整備を行う予定です。Wi-Fi環境が整わない家庭への支援として、モバイルルーター等の整備、また、教職員への人的サポート体制として、GIGAスクールサポーターの配置に向けて検討していきます。

また、学童保育所のWi-Fi環境の整備については、学校教育課としっかり連携、協議を行い、必要な時に対応できるように研究していきます。

問 新型コロナウイルス感染防止による図書館利用の変化は。

答 入館時、一人一人に体調を伺い、手の消毒をしていただき、マスクをされていない方は入館を控えていただいています。館内は本の貸し借りのみにして、30分程度でお願いしています。また、閉館後に返却された本を拭いたり、消毒した後、1日別のところに置いてから書棚に戻しています。

要望 菌やウイルスに対する市民の意識は高まっている。細菌・ウイルス・カビ等のほとんどの菌種に有効で、においやほこり、ごみ等にも1ページ1ページに対応する本の消毒機導入をお願いしたい。



大川市教育長の教育施策について
遠藤 博昭 議員

問 教育長の大川市の教育に対する抱負や施策について伺いたい。

答 私は、社会教育行政職員として従事したことで、今の考え方に大きな影響がありました。それは自分の信念を持ち、自分の住んでいる地域のために熱心に活動されている多くの人たちとの出会いです。とても生き生きと活動されている姿に感銘を受け、私にもできることが何かあるのではという意欲が出たことです。また、県庁での経験からは、教育分野だけでなく大人や大人の学びを推進するのではなく、様々な関係分野の人と連携しながら業務を遂行するネットワーク型行政の必要性を強く感じました。さらに、学校管理職としての経験から、子ども達が10年後に必要な4つの力として、人を大ににする力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジす

る力を身につけることが大切であると考えています。また、仕事をする上で必要な3つの社会人基礎力、一歩前に踏み出し失敗しても粘り強く取り組み力(アクション)、疑問を持ち考え抜く力(シンキング)、多様な人々とともに目標に向けて協力する力(チームワーク)を大事にしたいと思っています。大川市教育振興プログラムの施策を着実に進めていくことが教育長としての大きな使命と考えており、具体的に進める計画として、「大川市『未来に繋ぐ』第2次木の香プラン」を学校と協議しながら進めていきます。このプランは、3つの柱を立て、取組を具体的に示していますが、これらは、学校再編後の教育の方向性を見据えたもので、このプランを実施することとが本市教育の大きな節目であり、改革となると考えています。



大川市職員の育成について
新型コロナウイルスに対する大川市独自の施策について
永島 幸夫 議員

問 大川市民としては適材適所の職員の配置を望み、立派な大川市の行政マン・行政ウーマンとしての活躍を期待している。職員に対し、強い精神的教育を望むが、今後の方向性を伺いたい。

答 強い精神的教育への思いについては、仕事や様々な人間関係によるストレス等に起因する、精神的不調を来す職員がいるのが現状です。全職員を対象としたストレスチェック制度の活用やメンタルヘルス研修、自己防衛のすべを学ぶ機会を設け、職場環境の改善に努めていきたいと考えています。

問 市の備蓄マスクの配付状況は。

答 3月17日に、備蓄マスク6万5千枚を市内の歯科医院を含む医療機関、介護施設、保育園、認定こども園等に無償配付しました。

問 大木町は1世帯50枚のマスクを配付している。5月8日の定例

議員協議会で、本市もどうかと質問したが、市長は、少しずつ出回り始めているので現時点で配付予定はないと答弁された。そこで私は同日、市内コンビニ、ドラッグストア、スーパーを調べたところ、在庫はゼロだった。5月20日過ぎから店先に並び始め、現在、マスクは1枚25円ないし30円である。補正予算で購入したマスク等の単価と契約について伺いたい。

答 大量入手が困難な時期だったため、単価は、サージカルマスクが税込み1枚60円、手指消毒用エタノールジェルが税込み1本2千90円で、随意契約での購入です。**要望** 今年もインフルエンザ大流行の兆しがある。今後のインフルエンザ対策について、大川市独自の施策として市民の自己負担免除で予防接種が受けられるよう、切に願います。